

感染症危機対応としての診断技術の利用性確保に関する検討

研究分担者 柳原 克紀 長崎大学大学院 教授

研究要旨

COVID-19 の流行を踏まえ、公衆衛生危機管理の観点で、医療的な対抗手段となる医薬品や医療機器等の確保が喫緊の課題となっている。本分担研究では、重点感染症の検査における体系的な備蓄の考え方を確立し、重点感染症に対する検査体制の現状と課題を抽出した。

A. 研究目的

COVID-19 の流行を踏まえ、公衆衛生危機管理の観点で、医療的な対抗手段となる医薬品や医療機器等の確保が喫緊の課題となっている。特に、我が国では診断・検査体制の利用可能性・備蓄の脆弱さが露呈し、体系化した検査体制が確立していないことが明らかになった。本分担研究では、パンデミック時の検査における課題、重点感染症の特性に応じた診断技術のあり方について検討を行うことを目的とした。

B. 研究方法

診断技術の「備蓄」の考え方を形式化する。また、医療機関および衛生研究所に対してアンケート調査を行い、検査機関における現状と課題を整理し、対応方策を立案する。

（倫理面の配慮）

人を対象とした研究ではないため該当せず。

C. 研究結果

未知の感染症に対する検査は、核酸検出検査が優先的に考慮される。既知の感染症、希少疾患、バイオテロ、突然の集団感染、あるいはパンデミックなど、感染症の特徴とシナリオによって、要

求される迅速性と検査数が定義される。加えて、検査主体の拡大として、感染のシナリオに応じて感染研、地衛研から医療機関、民間検査機関への移行の必要性が明らかにされた。

アンケート調査では、検査体制、検査機器、検査試薬、検査の課題、連携、要望の項目で設問を作成した。回答を解析し、平時からの連携強化、民間企業の参入支援、試薬等の海外品依存、検査能力の維持、規制が課題として抽出された（資料 4 参照）。

D. 考察

COVID-19 パンデミックを振り返り、感染症検査の備蓄に対する考え方を明らかにすることにより、課題を抽出することができた。今後、これらに対する対応方策を立案し、検討していく必要がある。

E. 結論

重点感染症の検査における体系的な備蓄の考え方を確立し、課題を抽出した。今後、個々の課題に対する具体的な対応方策の提案と検証を行う。

F. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3.その他

該当なし